
2016年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社キト一(東証1部:6409)

2015年8月12日

2016年3月期 第1四半期 決算報告

2016年3月期 見通し

<概況>

- 日本 経済の回復基調が維持され、設備投資の需要が堅調に推移
- 北米 需要は、エネルギー関連に慎重さが見られるも、全体的には底堅く推移
- 中国 景気減速、不透明感がさらに強まる
- アジア 成長の勢いが鈍化し、本格的回復には至らず

<業績>

前年同期比で増収(43.8%)、増益(92.2%)

- 国内事業、米州事業が、需要低迷する中国事業をカバー
- 期初から、買収したピアレス社が連結業績に寄与、北米事業をさらに強化
- 需要が鈍化するアジアでは、収益改善に向けてサービス事業に注力

売上高 : 12,122百万円 (前年同期比+43.8%)

営業利益 : 538百万円 (前年同期比+92.2%)

四半期純利益* : 172百万円 (前年同期比+149.7%)

*親会社株主に帰属する四半期純利益

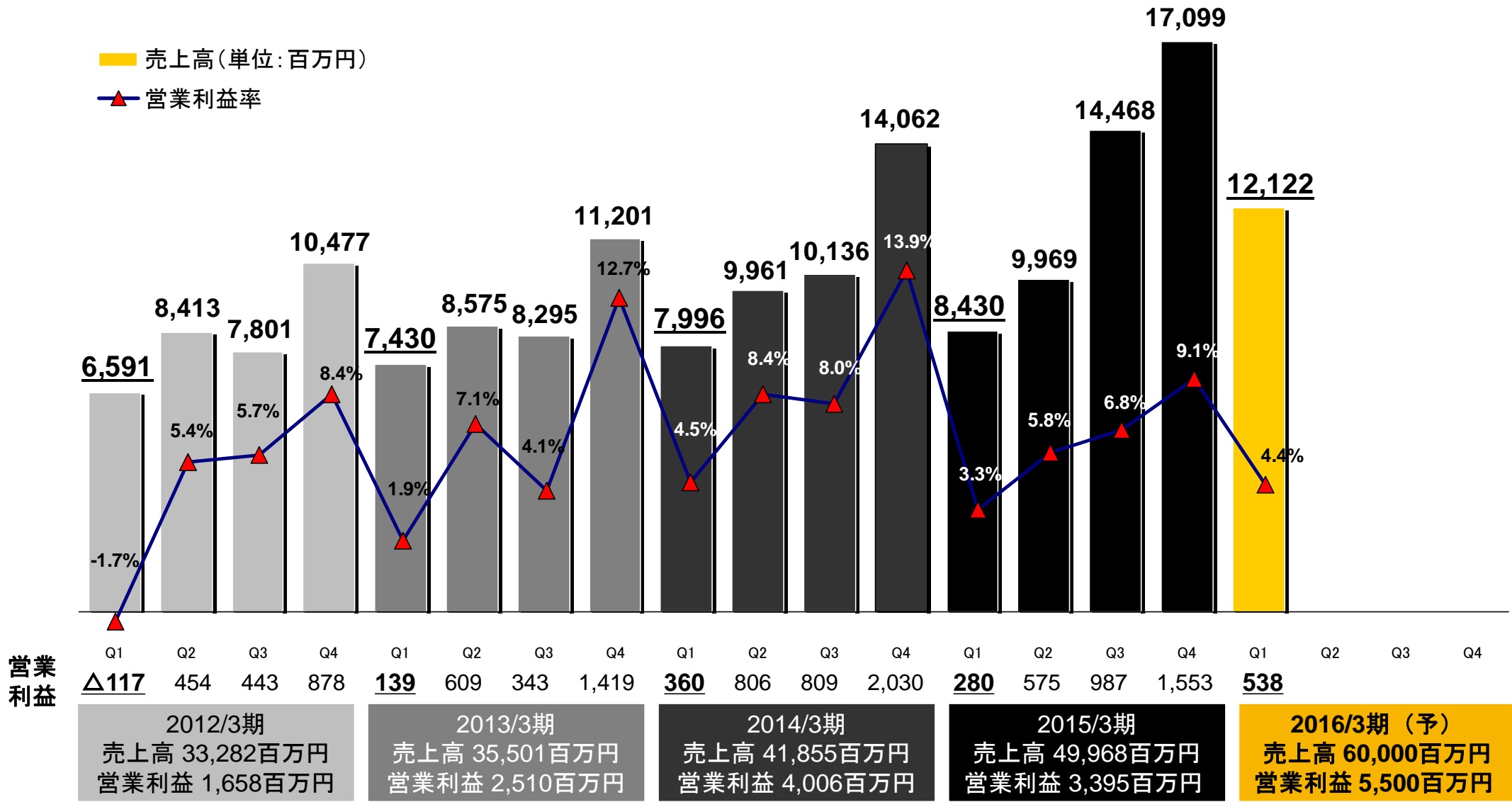
2016年3月期 第1四半期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2015/3期 1Q			2016/3期 1Q		
		対売上	前年同期比		対売上	前年同期比
売上高	8,430	100.0%	5.4%	12,122	100.0%	43.8%
営業利益	280	3.3%	△22.3%	538	4.4%	92.2%
経常利益	226	2.7%	△46.2%	418	3.4%	84.9%
当期純利益	69	0.8%	△70.0%	172	1.4%	149.7%

注 為替レート(2015/3期1Q→2016/3期1Q) : USD 102.2円 → 121.4円 CAD 93.7円 → 98.6円 EUR 140.1円 → 134.2円 RMB 16.9円 → 19.1円

売上高および営業利益率(四半期比較)

前年同期比で増収(43.8%)、増益(92.2%)。国内事業、米州事業が寄与



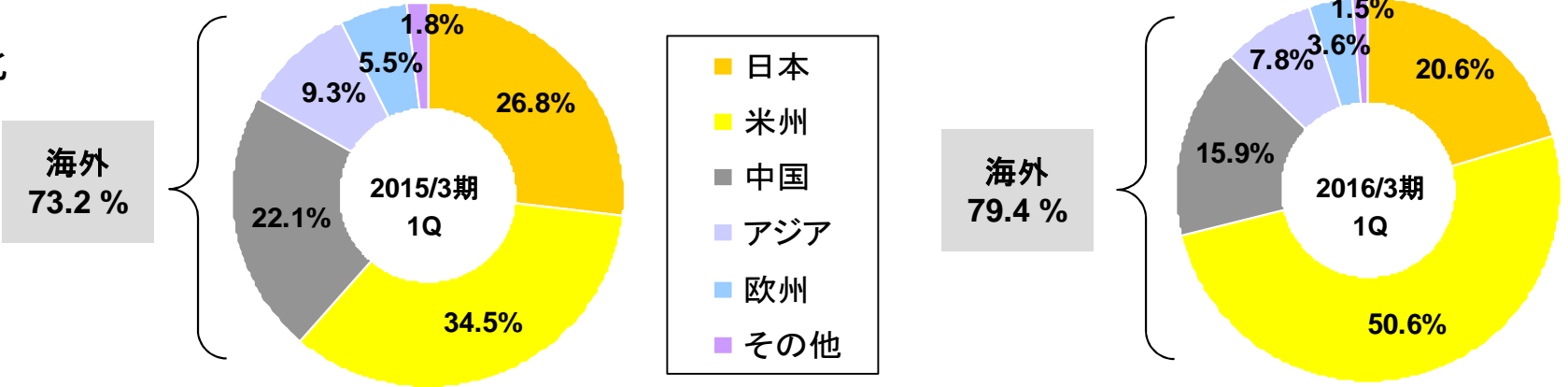
地域別の状況

グローバルな事業展開を引き続き促進、海外売上比率は約80%

(単位:百万円)	2014/3期 1Q		2015/3期 1Q		2016/3期 1Q		前年同期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	7,996	100.0%	8,430	100.0%	12,122	100.0%	3,692	43.8%
日本	2,306	28.8%	2,256	26.8%	2,501	20.6%	245	10.9%
米州	2,822	35.3%	2,910	34.5%	6,133	50.6%	3,222	110.7%
中国	1,595	20.0%	1,862	22.1%	1,926	15.9%	63	3.4%
アジア	702	8.8%	782	9.3%	940	7.8%	158	20.2%
欧州	379	4.8%	466	5.5%	434	3.6%	△31	△6.8%
その他地域	190	2.4%	151	1.8%	185	1.5%	34	22.9%

注 為替レート(2015/3期1Q→2016/3期1Q) : USD 102.2円 → 121.4円 CAD 93.7円 → 98.6円 EUR 140.1円 → 134.2円 RMB 16.9円 → 19.1円

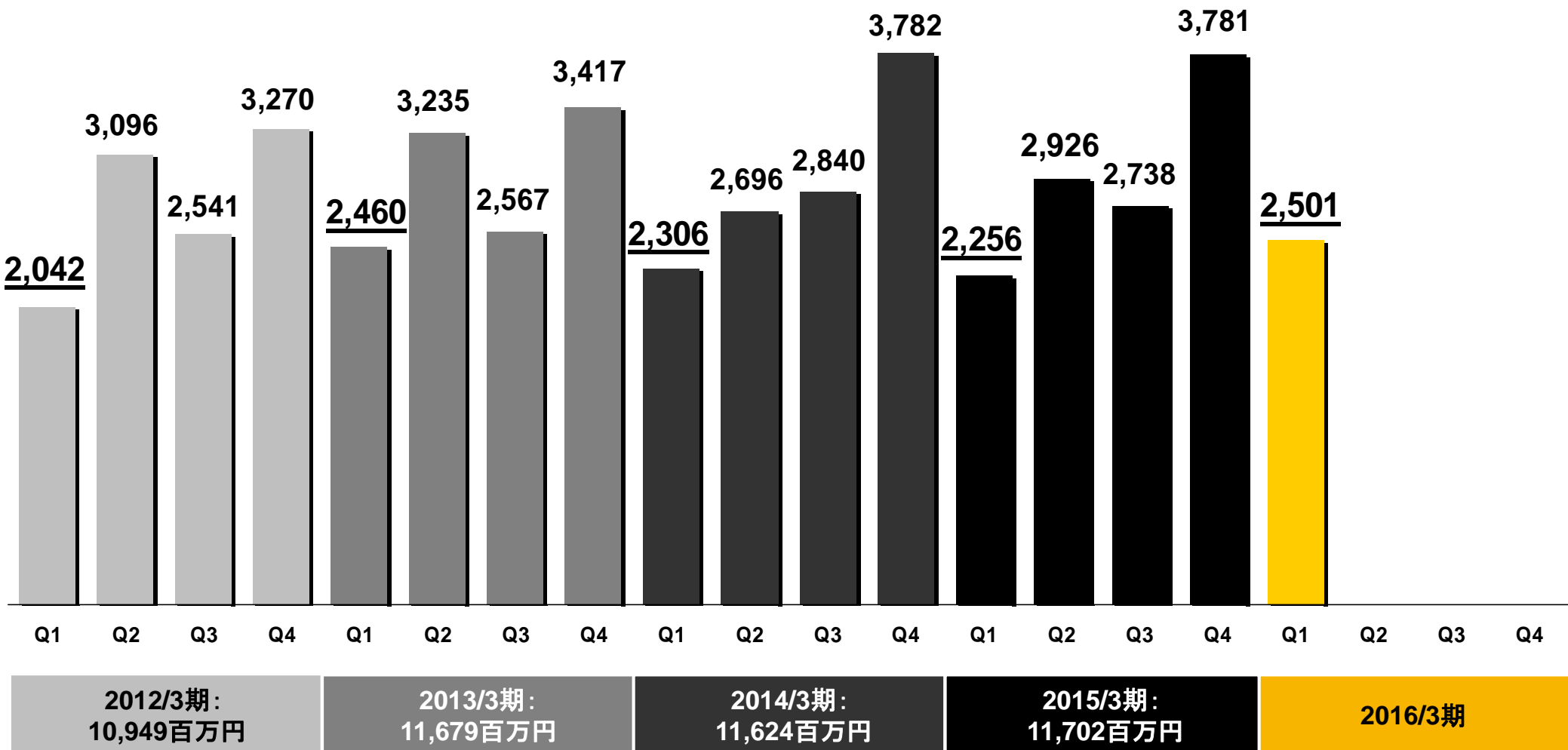
地域別
売上高構成比



地域別売上高(日本)

- 民間設備投資向けの需要が継続し、ゆるやかな拡大基調が続く
- 建築土木の工事向け需要も、底堅く推移

(単位:百万円)

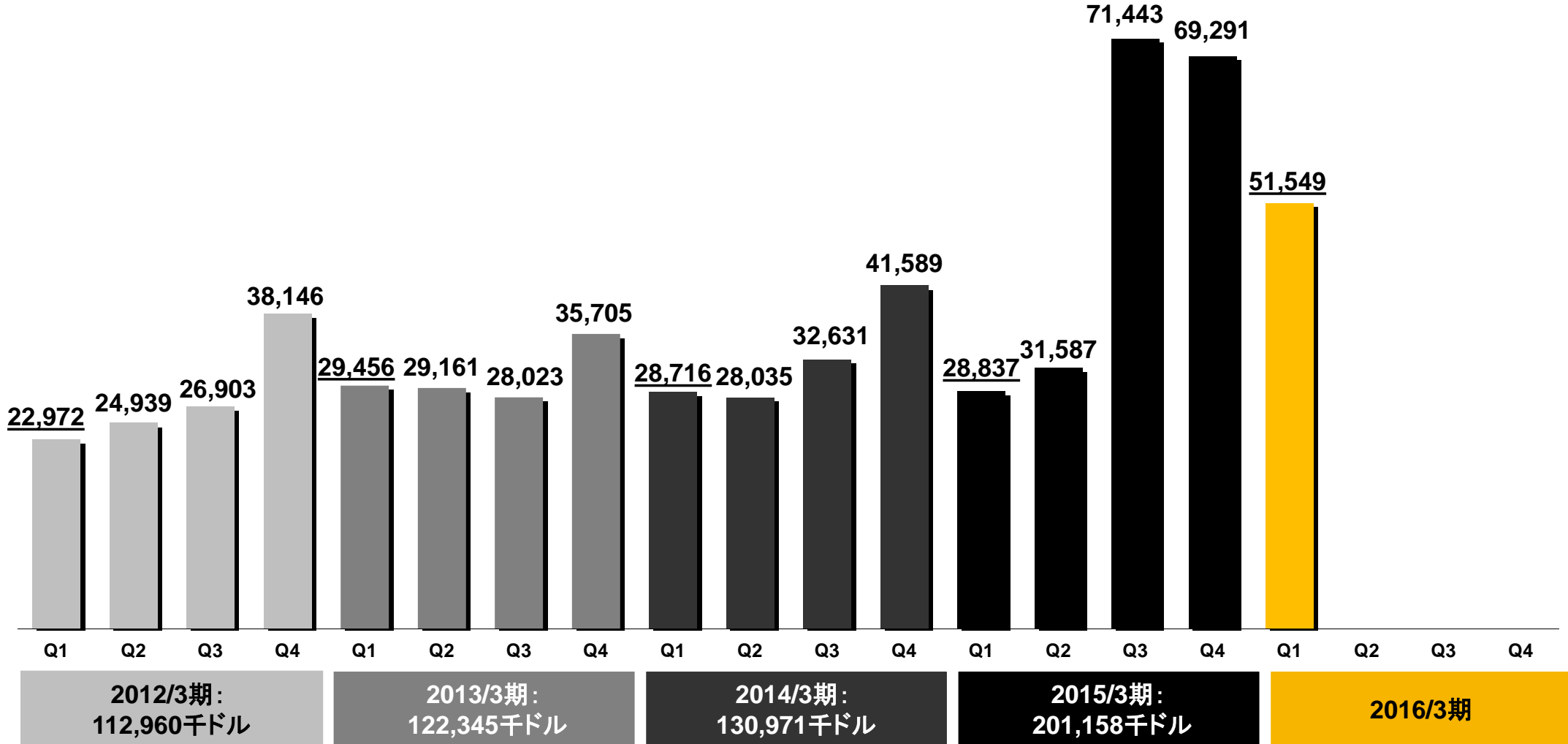


地域別売上高(米州)

※グラフは米国市場売上高にカナダ市場売上高及び中南米市場売上高(千ドル換算)を加算した金額の推移

- **ピアレス社の買収効果により、大きく増収。既存事業も好調を維持**
- **エネルギー向け受注が落ち込むも、製造業ほか幅広い産業で需要が堅調**

(単位:千USD)

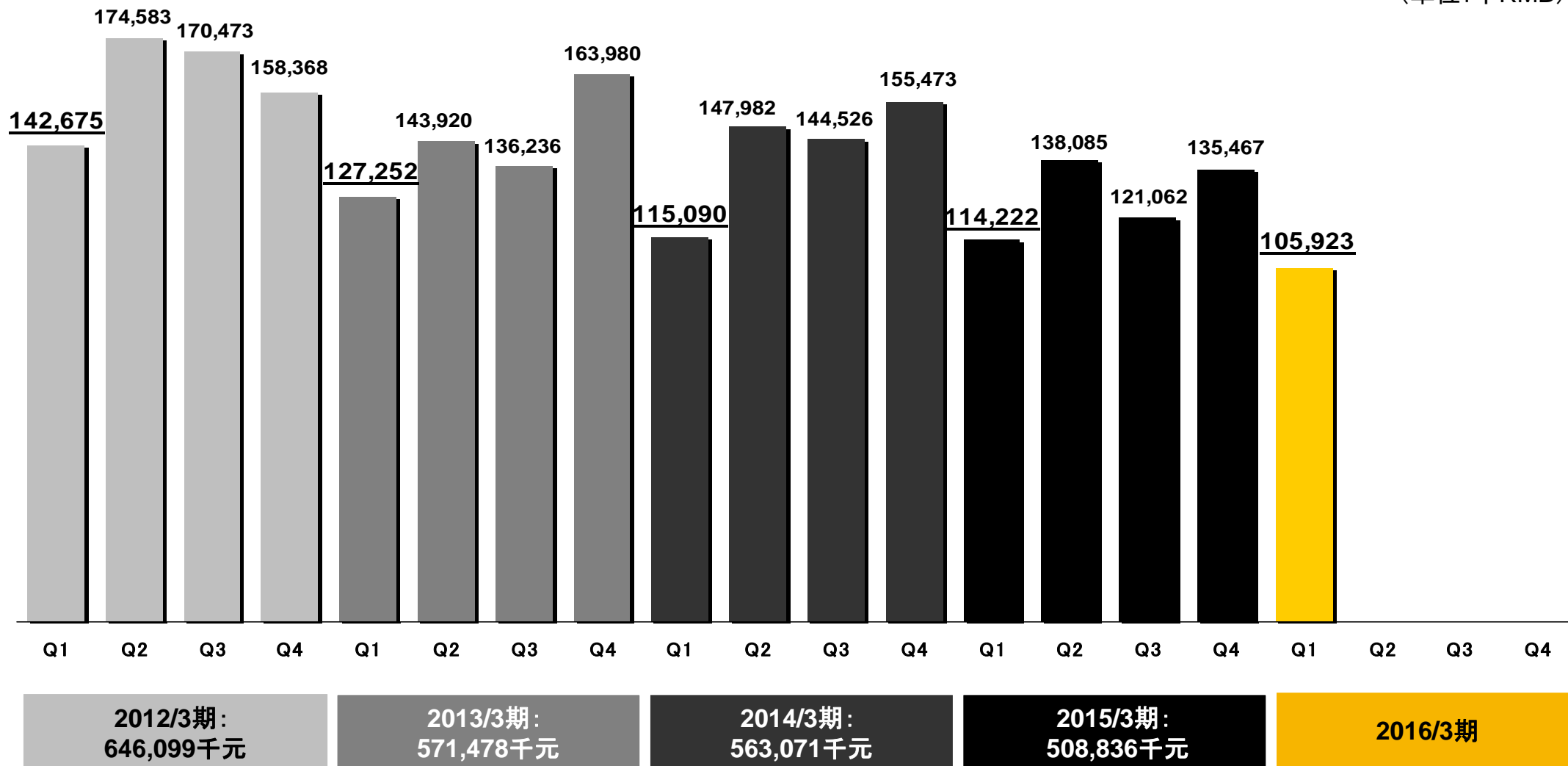


地域別売上高(中国)

※中国は1-12月決算

- 経済の減速が続き、景気見通しは依然として不透明
- 製品の評価は高く市場でのシェアは拡大。

(単位: 千RMB)

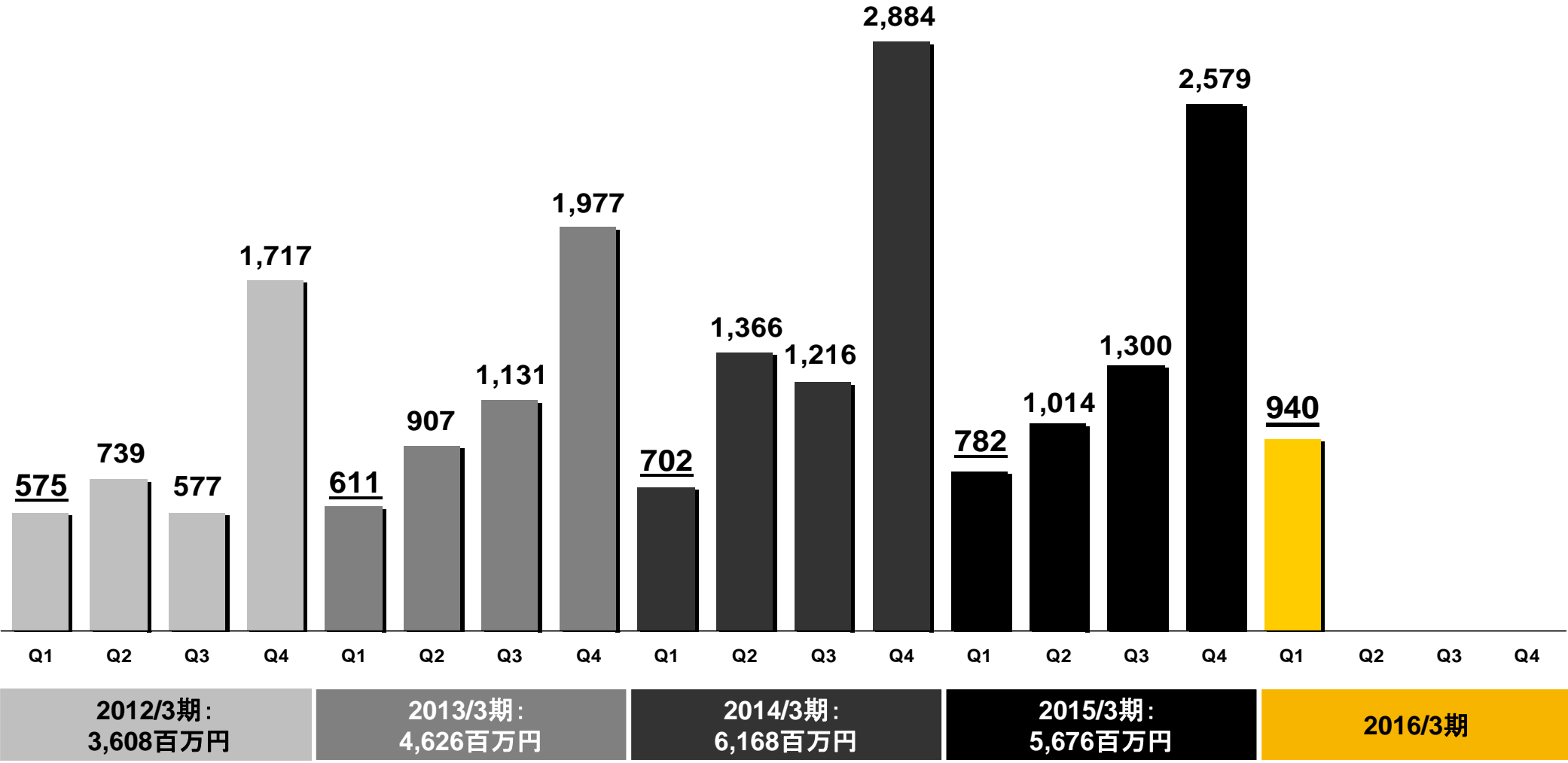


地域別売上高(アジア)

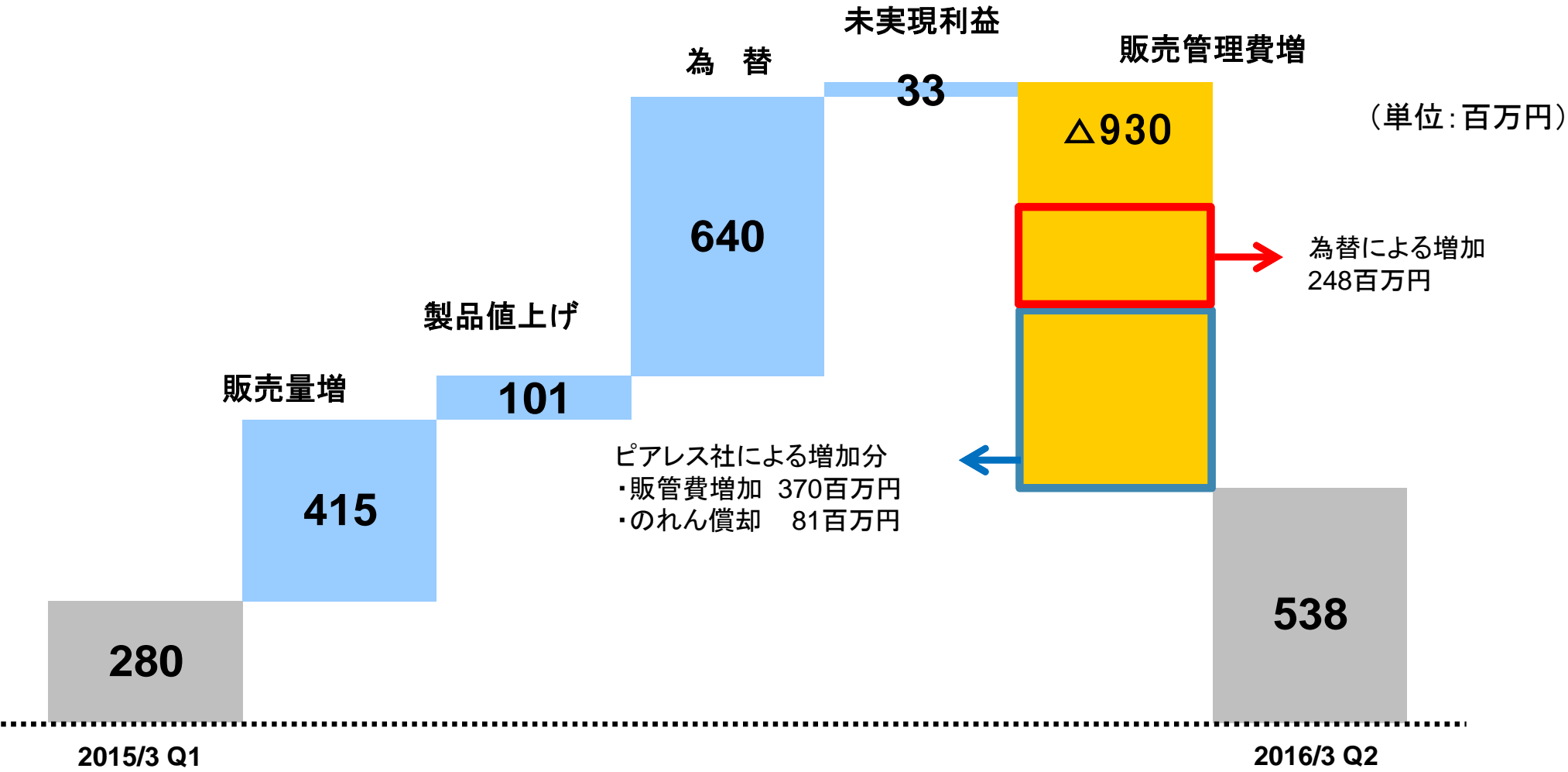
※タイ、韓国は1-12月決算

- 中国経済の減速が地域経済に影響し、設備投資の成長に鈍化
- サービス事業、ホイスト販売に注力、利益管理を強化

(単位:百万円)



営業利益の比較



2016年3月期 第1Q 連結貸借対照表

単位:百万円	2015/3期 期末	2016/3期 1Q	増減額
流動資産	40,478	38,515	△1,963
現金・預金	9,792	9,592	△199
受取手形及び 売掛金	12,593	9,869	△2,724
たな卸資産	15,105	16,026	920
その他	2,986	3,026	40
固定資産	22,703	22,831	127
有形固定資産	12,161	12,840	678
無形固定資産	9,009	8,495	△514
投資その他資産	1,532	1,496	△36
繰延資産	1	0	△1
資産合計	63,183	61,347	△1,836

単位:百万円	2015/3期 期末	2016/3期 1Q	増減額
流動負債	17,093	14,445	△2,647
支払手形及び買掛金	6,113	6,077	△35
短期借入金	4,319	4,280	△38
その他	6,660	4,087	△2,573
固定負債	20,464	21,314	850
社債	-	-	-
長期借入金	16,025	16,545	520
その他	4,438	4,768	330
純資産合計	25,626	25,587	△38
負債純資産合計	63,183	61,347	△1,836

2016年3月期 第1四半期 決算報告

2016年3月期 見通し

日 本



市場環境

- 景気回復基調が持続、民間設備投資は緩やかに上昇
- インフラ整備ほか建築土木の需要が徐々に顕在化

取り組み

- クレーンビルダーとの連携強化
- 新規分野の開拓強化(エンターテイメントなど)

米 州



市場環境

- 米国は幅広い産業で需要が堅調に推移
- 資源・エネルギー関連の需要軟調となるリスク

取り組み

- 製品品揃えの拡大による市場競争力の強化
- 現地生産の拡大によりサプライチェーン最適化

中 国



市場環境

- 経済の減速傾向続き、景気の不透明感はなおも払しょくされず
- 東北・内陸部での潜在需要あり

取り組み

- 東北・内陸地域における販路拡大を継続
- 現地生産の拡大、製品強化による市場シェア拡大

ア ジ ア



市場環境

- 中国経済の減速が地域経済に影響し、設備投資の成長に鈍化
- 引き続き地域のマクロ情勢の見極めが必要

取り組み

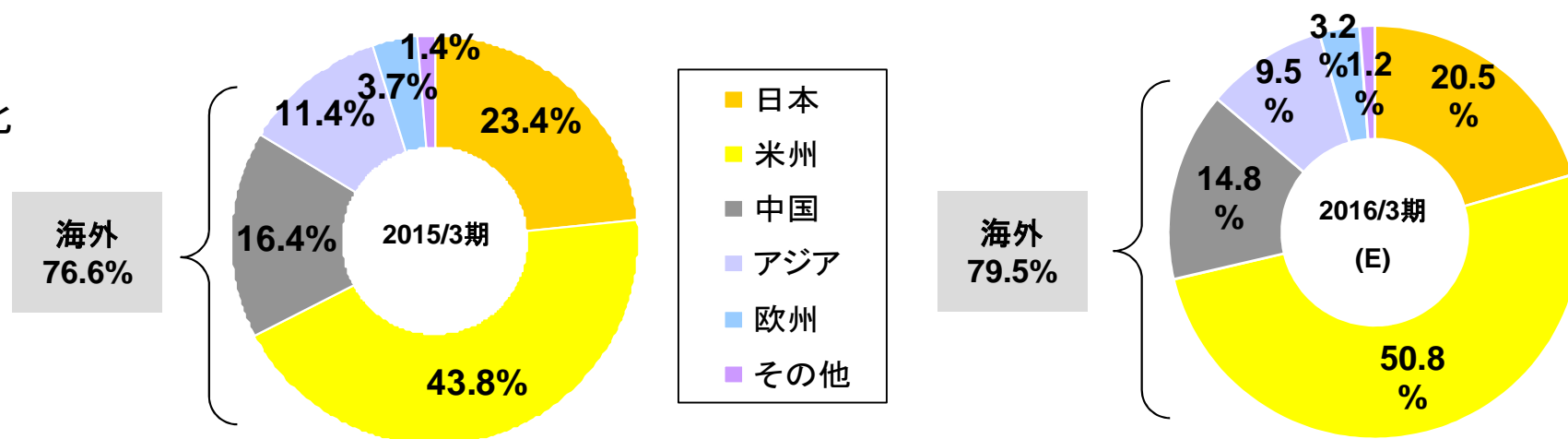
- クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化
- 利益管理の強化

2016年3月期 業績予想(地域別)

(単位:百万円)	2015/3期		2016/3期(E)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	49,968	100.0%	60,000	100.0%	10,031	20.1%
日本	11,702	23.4%	12,300	20.5%	597	5.1%
米州	21,888	43.8%	30,500	50.8%	8,611	39.3%
中国	8,198	16.4%	8,900	14.8%	701	8.6%
アジア	5,676	11.4%	5,700	9.5%	23	0.4%
欧州	1,823	3.7%	1,900	3.2%	76	4.2%
その他地域	677	1.4%	700	1.2%	22	3.3%

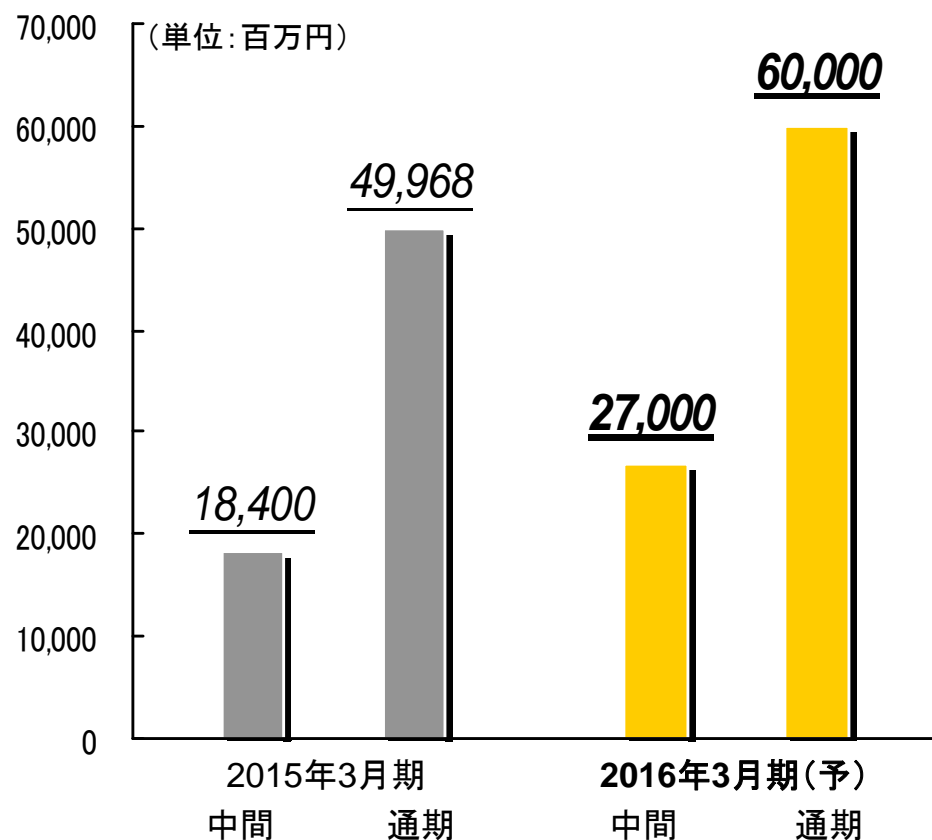
注 為替レート(2015/3期→2016/3期) : USD 109.9円→**115.0円** CAD 96.5円→**95.0円** EUR 138.8円→**130.0円** RMB 17.2円→**18.8円**

地域別
売上高構成比

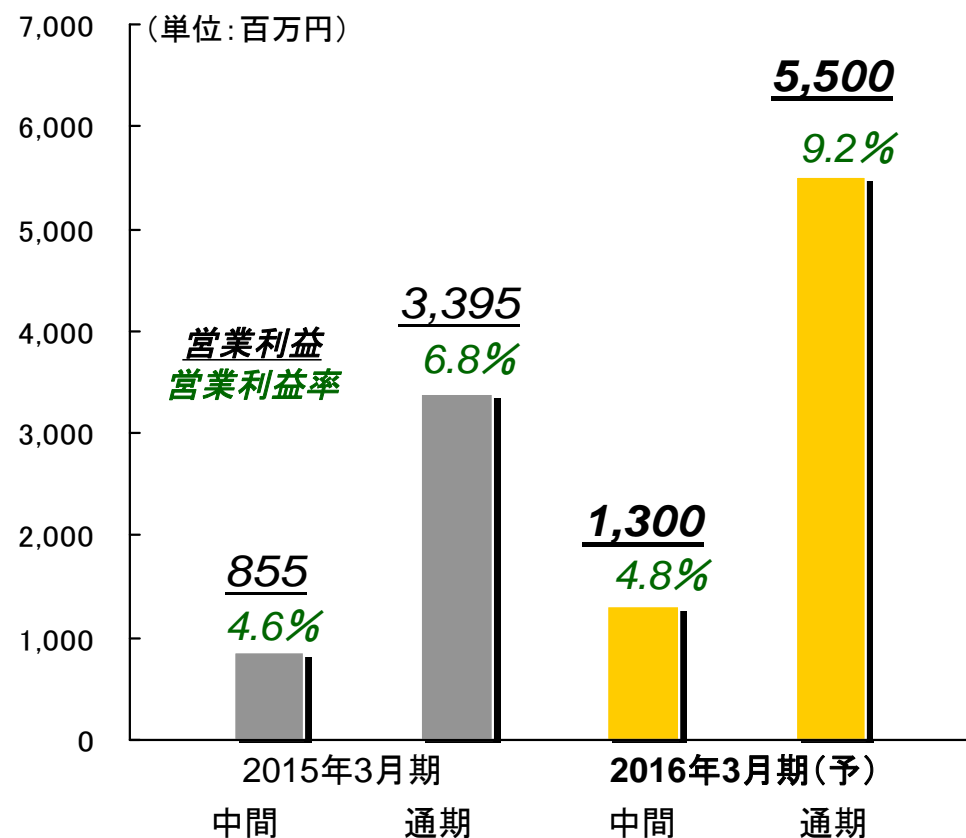


米州、国内市場が業績をけん引
中国・アジア市場の落ち込みを補い、売上高600億円に

売上高



営業利益・営業利益率



EPS、ROE ともに改善を見込む

(単位：百万円)	2015/3期			2016/3期(E)		
		対売上	前期比		対売上	前期比
売上高	49,968	100.0%	19.4%	60,000	100.0%	20.1%
営業利益	3,395	6.8%	△15.2%	5,500	9.2%	62.0%
経常利益	3,423	6.8%	△16.4%	5,000	8.3%	46.0%
当期純利益	2,026	4.1%	△14.2%	3,000	5.0%	48.0%
EPS	77.52円	-	-	114.36円	-	-
ROE	8.9%	-	-	≒12.2%	-	-
設備投資額	1,408	-	-	2,600	-	-
減価償却費	1,311	-	-	2,000	-	-

注 為替レート(2015/3期→2016/3期) : USD 109.9円→115.0円 CAD 96.5円→95.0円 EUR 138.8円→130.0円 RMB 17.2円→18.8円

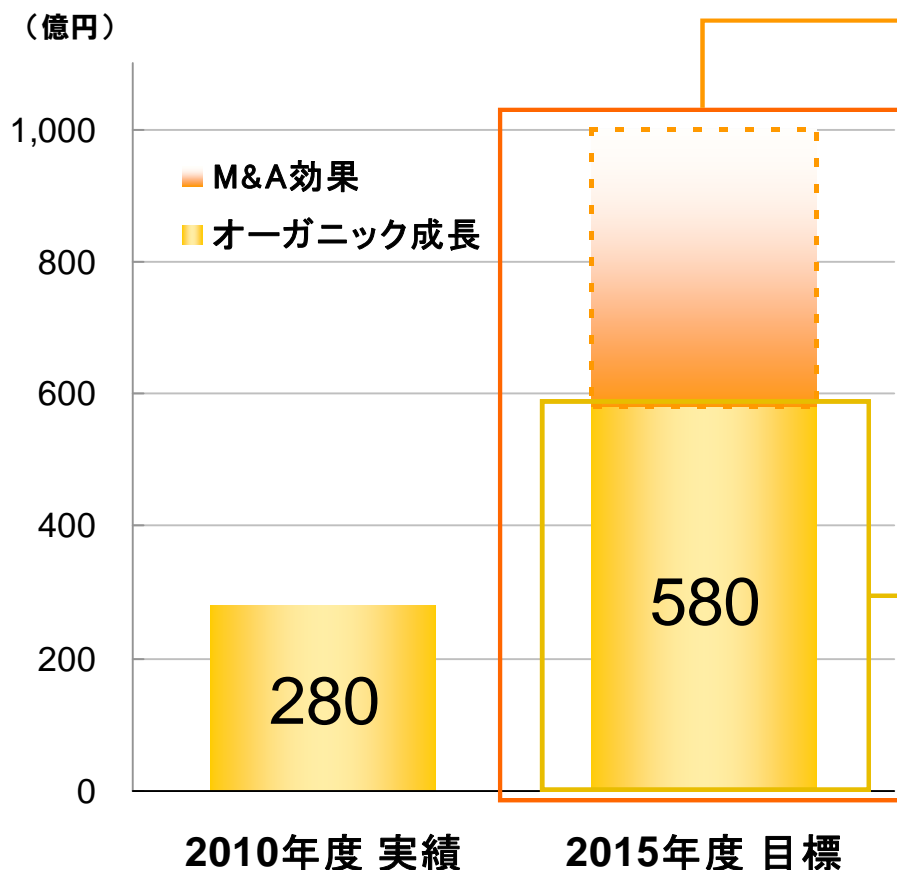
中期経営計画(2011-2015)

(ご参考) 現中期経営計画 2011年度 スタート時の前提

中期目標

- 日本企業から真のグローバル企業へ
- グローバル売上1000億円企業となる

売上見込および目標



グローバル売上1,000億円企業となる

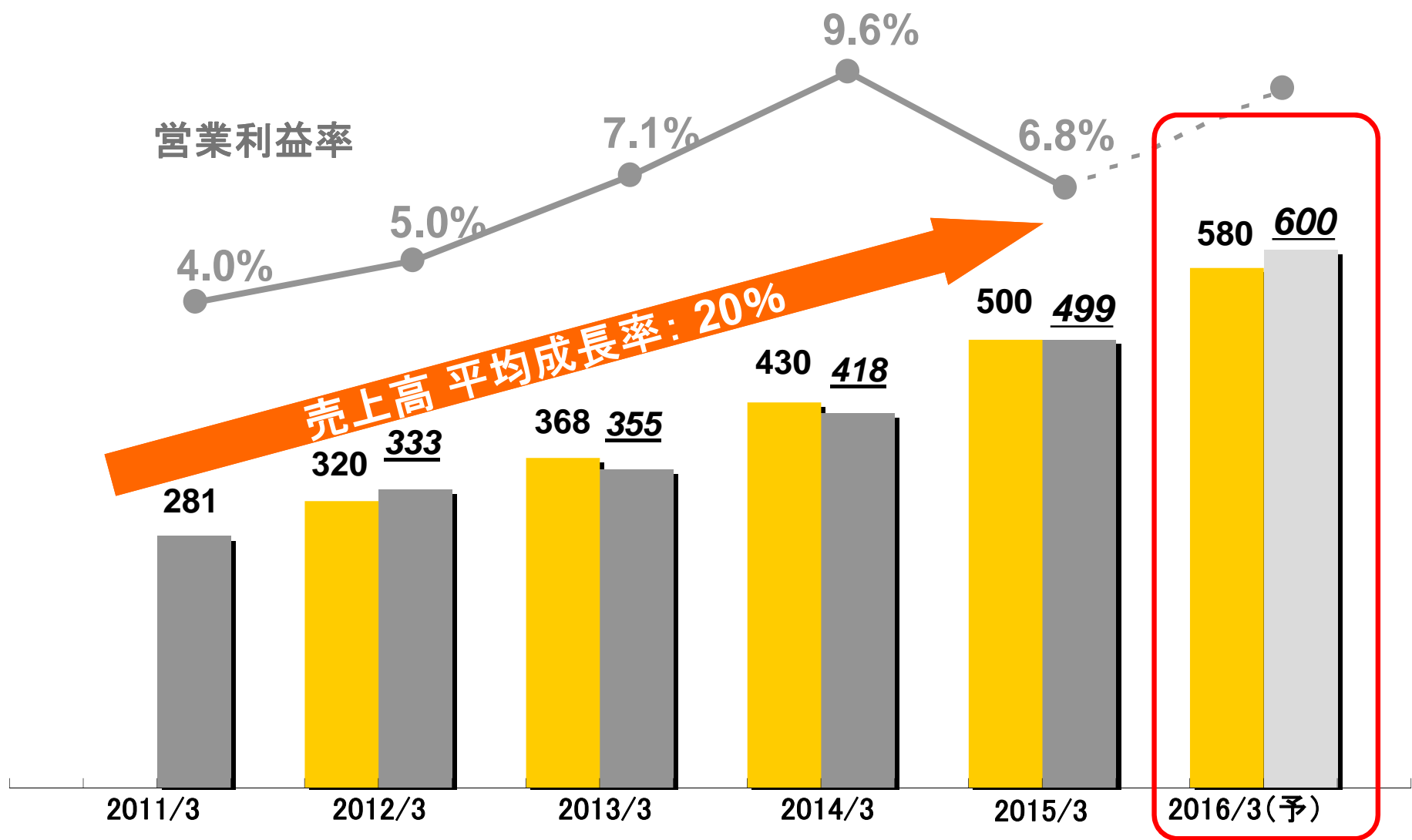
オーガニック成長の売上580億円に加え、積極的なM&Aによるさらなる拡大を進め、売上1000億円を超える企業となる

日本企業から真のグローバル企業へ

キトーがグローバルNo.1のホイストメーカーになるために、今後の5年間は事業規模拡大の大きなチャンスである。日本発の海外事業拡大から、世界各地のリソースを活用した事業拡大へと転換していく

中期経営計画の進捗状況

最終年度は、M&Aによる成長も取り込んで、
当初計画比増の600億円、平均成長率は20%に



参考資料：取扱製品

取扱製品の分類		手動製品	電動製品	クレーン、その他
標準製品	顧客の一般的なニーズに対応した規格製品	 <p>手動チェーンブロック</p> <p>レバーブロック</p>	 <p>電気チェーンブロック</p> <p>ロープホイスト</p>	 <p>スリング製品</p> <p>サドル・クレーンコンポーネント</p>
		 <p>手動チェーンブロック(100t)</p>	 <p>ライトクレーン</p> <p>天井走行クレーン</p>	 <p>システムクレーン</p> <p>マニピュレータ</p>
特殊製品	顧客の様々なニーズに合わせてオリジナル設計・制作した製品			
その他	アフターサービス等	各種部品の提供、メンテナンス等		
売上シェア：75.1%				
売上シェア：13.5%				
売上シェア：11.4%				

 = 当社の主要製品

For the Global Next Stage

KITO

KITO group global unified slogan

常にお客様の期待を上回る価値を提供し続け、市場におけるキトーブランドの価値を最大化し、「真のグローバルNo. 1のホイストメーカー」を目指します。